



11月を振り返って



学校だよりも久しぶりになりましたが、今月はたくさんの行事がありました。それを写真で振り返ってみます。



三宅先生の給食指導（3年）



4年校外学習（浄水場）



修学旅行（箱根）



教育の森神崎探検（1年.2年.保育所）



ハロウィンパーティー（5年）



いもパーティー（1.2年）



いもパーティー（3.4年）



再資源化物回収

いろいろありましたが、子どもたちはどの行事も楽しそうですね。27日(木)には、マラソン大会と餅つき大会がありますので、子どもたちの頑張りをぜひ見に来てください。

(編集後記)

今年も残すところあと一月あまり、学校は来月の22日が終業式なのでもう1ヶ月ありません。毎日朝夕はだいぶ寒くなり、コタツが欠かせません。コタツは日本独特の暖房で、「頭寒足熱（ずかんそくねつ）」といわれ、頭を冷やし足を暖めることは健康によいとされていました。私にとって日本の冬の風物詩といたら、何といたってもコタツでミカンを食べることでしょうか。コタツにミカンはなぜ合いますよね。▼では、コタツはいつから日本にあるのでしょうか。調べてみると、コタツの始まりは、室町時代の1300年頃からで、当時のコタツは、囲炉裏の上にやぐらを組んで、布団をかけて使う形でした。そのうち、囲炉裏を床より低く掘って、中に足を入れられるようにした「掘りごたつ」に進化しました。現在のようなコタツに近くなったのは江戸時代中期で、火鉢などをちゃぶ台などの下に置くことで、どこでも移動できる「置きごたつ」になりました。電気コタツの登場は1956年です。形は置きごたつタイプ・掘りごたつタイプなどいろいろです。今ではほとんどのコタツが電気式ですが、まだ豆炭を使って暖を取る豆炭コタツも存在しているそうです。▼2012年の調査では、暖房の全体で見ると、「エアコン」60.0%で他を圧倒して最も高く、次いで「こたつ」29.6%、「ホットカーペット」21.6%、「石油ファンヒーター」19.2%と続く結果でした。時代の移り変わりですね。私なりに、コタツ文化を続けたいと思います。▼再資源化物回収では、好天に恵まれ、新聞紙、雑誌、段ボール、瓶などが、地域の皆様、PTAの皆様の御協力でたくさん回収することができました。お忙しい中、本当にありがとうございました。収益金は、子どもたちのために有効活用をさせていただきます。▼最近寒くなってきたせいでかぜをひいたのか、マスクをしている子どもが増えてきました。うがいや手洗いなど、学校でも指導していますが、家庭でもお願いします。

大平台

米沢小 学校だより
平成26年度第19号
11月26日(火)発行

